

製品名: サイトケラチン 5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09748**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	62kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT5
別名	KRT5; Keratin; type II cytoskeletal 5; 58 kDa cytokeratin; Cytokeratin-5; CK-5; Keratin-5; K5; Type-II keratin Kb5
遺伝子 ID	3852.0
SwissProt ID	P13647
免疫原	抗血清はヒトケラチン 5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 541-590

背景

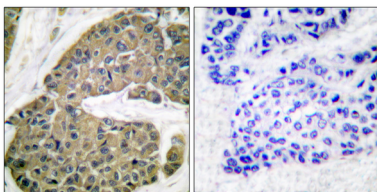
ケラチン 5 (KRT5) ホモサピエンス この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ケラチン遺伝子ファミリーのメンバーです。タ

タイプIIサイトケラチンは、単純および重層上皮組織の分化中に共発現するヘテロタイプのケラチン鎖のペアに配列された塩基性または中性タンパク質で構成されます。このタイプIIサイトケラチンは、ファミリーメンバーのKRT14とともに表皮の基底層で特異的に発現します。これらの遺伝子の変異は、単純性表皮水疱症と呼ばれる複合疾患に関連しています。タイプIIサイトケラチンは、染色体12q12-q13の領域に密集しています。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患：KRT5の欠陥は、ダウリング・ミーラ型単純性表皮水疱症（DM-EBS）の原因です[MIM:131760]。DM-EBSは、表皮内表皮水疱症の重症型であり、全身性のヘルペス状水疱、稗粒腫形成、爪異常症、粘膜障害を特徴とする。、疾患：KRT5遺伝子の欠陥は、ケブナー型単純性表皮水疱症（K-EBS）[MIM:131900]の原因である。K-EBSは、全身性の皮膚水疱を特徴とする表皮内表皮水疱症の一種である。その表現型はダウリング・ミーラ型と根本的に異なるものではないが、重症度はダウリング・ミーラ型より低い。、疾患：KRT5遺伝子の欠陥は、ウェーバー・コケイン型単純性表皮水疱症（WC-EBS）[MIM:131800]の原因である。WC-EBSは表皮内表皮水疱症の一種で、皮膚の掌側と足底に局限した水疱が特徴です。、疾患：KRT5の欠陥は、ダウリング・デゴス病（DDD）[MIM:179850]の原因です。この病気は、ダウリング・デゴス・キタムラ病またはキタムラ網状色素沈着症としても知られています。DDDは常染色体優性遺伝性皮膚疾患です。罹患した個人は、思春期後に進行性で外観を損なう網状色素沈着と、主に屈曲部と大きな皮膚のひだを侵す小さな角質増殖性の暗褐色丘疹を発症します。患者は通常、髪や爪に異常は見られません。、疾患：KRT5の欠陥は、遊走性環状紅斑を伴う単純性表皮水疱症（EBSMCE）[MIM:609352]の原因です。EBSMCEは、表皮内表皮水疱症の一種で、異常な遊走性環状紅斑を特徴とします。皮膚病変は出生時から主に手足に現れますが、爪、眼球上皮、粘膜には現れません。病変は褐色の色素沈着を伴って治癒しますが、瘢痕は残りません。電子顕微鏡所見はDM-EBSで見られるものとは異なり、トノフィラメントの凝集は認められません。、疾患：KRT5遺伝子の欠陥は、斑状色素沈着を伴う単純性表皮水疱症（MP-EBS）[MIM:131960]の原因です。MP-EBSは、表皮内表皮水疱症の一種で、末端部に水疱が生じ、体幹および四肢近位部に斑状の色素沈着が見られ、色素沈着過少および色素沈着斑を伴う。、その他：細胞骨格ケラチンとマイクロフィブリルケラチンには、I型（酸性、40~55 kDa）とII型（中性~塩基性、56~70 kDa）の2種類がある。、類似性：中間径フィラメントファミリーに属する。、サブユニット：2つのI型ケラチンと2つのII型ケラチンからなるヘテロ四量体。ケラチン5はケラチン14と会合する。TCHPと相互作用する。、

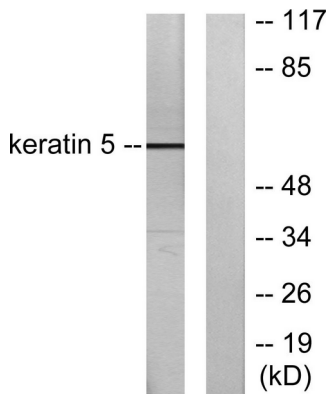
研究分野

シグナル伝達

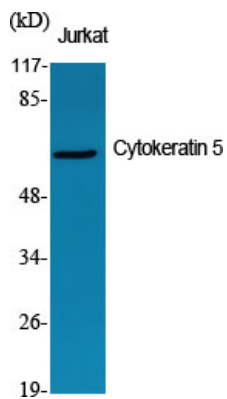
画像データ



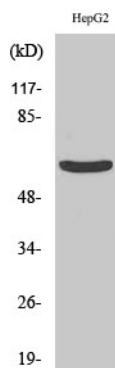
ケラチン5抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ケラチン 5 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈したサイトケラチン 5 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 1000 希釈のサイトケラチン 5 ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析